

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題4 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善と充実」

I 学校名 千歳市立東小学校【石狩管内】

II 研究の概要

1 研究主題

「主体的に考え、進んで学び続ける、心豊かな子供の育成

～東小教育のUD（ユニバーサルデザイン）を通して～

2 研究仮説

- ・東小における教育をUD（ユニバーサルデザイン）化することにより、認め合う仲間とともに、いろいろな学習活動に対して前向きに最後まで取り組み、学びを深め合える子どもを、育成することができるだろう。

3 研究内容

「授業のUD（ユニバーサルデザイン）」

①全体指導における工夫

- ・時間の構造化（活動の順番や所要時間、終了時刻の事前提示）
- ・場の構造化（どこで何をするか、空間を分ける。活動や動線を考慮した教材の配置）
- ・焦点化（学習のねらいや活動を絞り込む。）
- ・展開の構造化（授業スタイルのパターン化など）
- ・スモールステップ化（学ぶメンバーの実態に応じた課題の難易度の調整）
- ・視覚化（板書の工夫、動画、写真、挿絵、カードなどの効果的な活用）
- ・共有化（話し合う、伝え合う、協力し合う場面の設定）
- ・思考の活性化（教材のしかけ、考える音読など）
- ・参加の促進（Which型課題の設定、課題の工夫、ゲーム性、自己選択、ヘルプカードなど）

②個別指導における工夫、配慮

- ・話し合い活動が難しいペア→教師が間に入って調整役をする。
- ・全体での発表が難しい児童→ノートの記述の発言を勧めたり教師が紹介したりする。
- ・書くことが苦手な児童→書き出しの指示や他の児童の意見を写すことを許可する。
- ・視覚情報処理が苦手な児童→教師が板書を読み上げ、ノートに書かせる。
- ・作業処理速度遅い児童→「課題」と「まとめ」だけをノートに書かせる。

4 研究計画

1年次（令和4年度）	2年次（令和5年度）	3年次（令和6年度）
構想・計画・実践	実践・検証	実践・定着
<ul style="list-style-type: none"> ・つきたい力・求める子ども像の共有と確認、実態把握 ・研究主題、仮説の設定 ・研究内容の確定 ・理論研究 ・授業実践 ・成果と次年度の課題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・つきたい力・求める子ども像の共有と確認、実態把握 ・研究仮説の再検討 ・研究内容の再検討 ・理論研究の充実 ・授業実践 ・成果と次年度の課題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・つきたい力・求める子ども像の共有と確認、実態把握 ・研究仮説の再検討 ・研究内容の再検討 ・理論研究の充実 ・授業実践 ・成果と次年度の課題の確認

Ⅲ 実践例

第3・4学年 国語科学習指導案

第3学年

第4学年

1. 単元名 れいの書き方に気をつけて読み、それをいかして書こう
「すがたをかえる大豆」

2. 単元の構想

本単元は、子どもたちが「初め」「中」「終わり」の構成を意識しやすい文章となっている。しかし、「中」は、どの段落から始まるのか、迷うことが予想される。要点をまとめる活動により、構成を捉える方法を知り、人に伝えたいと思う食べ物について説明する文章を書くことで力の定着を図る。

3. 単元における東小UDとの関連

①【全体指導における工夫】

- ・大豆食品例の写真を黒板に提示することで、分類の仕方や順序性などが視覚的に捉えるようにする。（視覚化）
- ・「例の選び方」や「例の順序性」、「かくれた問い」など、1時間の授業における指導内容を明確化し、一つに絞る。食品カードを準備し、並び替えながら、自分なりの文章を書かせる。（焦点化）

②【個別指導における工夫】

- ・叙述にある「大豆食品」を抜き出したり、比べたりすることが困難な場合を考えて小さく印刷したカードを用意する。具体的なイメージとともに語句の意味を理解させる。
- ・強調したい言葉をセンテンスカードにし、際立つように提示し着眼点を伝える。

1. 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
「世界にほこる和紙」
「伝統工芸のよさを伝えよう」

2. 単元の構想

本単元は、多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしいという筆者の思いが書かれた文章である。洋紙と比較しながら述べられていることや、複数の事例を挙げて説明していることのよさに子どもが気づけるようにしたい。単元の後半では、百科事典などを活用して伝統工芸について調べたことを書く活動により、目的を意識して要約し、力の定着を図っていく。

3. 単元における東小UDとの関連

①【全体指導における工夫】

- ・対比型の板書を用いることで和紙と洋紙の違いをよりわかりやすいようにする。（視覚化）
- ・和紙の「長所」だけでなく「短所」に焦点化することで、文章には書かれていないことを想像させ、筆者の主張に対する理解を深められるようにする。（焦点化）

②【個別指導における工夫】

- ・文章全体を視野に入れて考えることが難しい場合、思考に必要な情報に焦点化できるように、「和紙」「洋紙」の言葉に○印つけるように促す。
- ・自分の力で要約することが困難な場合、センテンスカードの中から自分の考えにつながる1枚を選択させる。

4. 単元の目標

例が話題に合わせて選ばれていることや、順序だてて整理されていることなどを文章を基にとらえるとともに、自らの文章に生かすことができる。

5. 単元の指導計画

(14時間扱い 本時8時間目)

4. 単元の目標

筆者の主張とそれを支える事柄の役割について理解し、中心となる語や文を捉えながら要約するとともに、自らの文章に生かすことができる。

(14時間扱い 本時8時間目)

学習活動	時	時	学習活動
大豆から作られた食べ物には、どんなものがあるのかな？ ○説明内容を大まかに捉え、単元の見通しをもつ。 ・全文を通読し、初めて知ったことを交流する活動を通して、説明内容をおおまかに理解するとともに、「すがたをかえる○○」という説明文を書くという単元の見通しを持つことができるようにする。 ・「初め」「中」「終わり」に分ける活動から、「中」がどこから始まるか自分の考えを持つようにする。	1	1	文の大体を捉えよう！ ○全文を通読後、「和紙をどれくらい使ってみたか」として考える。 ・学習者の関心を高めるために、筆者の述べる和紙の魅力について読者としてどれくらい共感できるか初発の感想について交流を行う。
○中心となる語や文の見つけ方を知り段落ごとの要点をまとめる。	2 3	2 3	○中心となる語や文の見つけ方を知り段落ごとの要点をまとめる。
国分さんの説明の工夫を見つけよう！ ○筆者が大豆食品の例をどのように仲間分けしているか考える。 ・例が仲間分けされていることを捉える活動を通して、例の分類には筆者の意図があることに気づくことができるようにする。	4	4	○教材の中にある【対比関係】について考える。 ・教材の中で筆者が用いている対比関係、(和紙と洋紙、日本と世界、過去と現在、人の手と機械)に気づかせ、文章の構造と内容を整理する。
○問いの文を加えたとしたらどんな文がよいか考える。 ・「中」段落の中心文を捉える活動を通して、「初め」には、問いの文がかくれていることを確認する。	5	5	○「和紙と洋紙の違い」について整理することで、和紙のよさを考える。 ・筆者の述べる和紙のよさに気づけるように、和紙と洋紙の相違点(共通点)について板書を用いながら整理する。
○筆者が事例をどんな順序で、説明しているかについて考える。 ・九つの食品を比較したり、接続語に着目したりしながら、筆者がどのような順序で事例を説明しているかについて考えることができるようにする。 ・「すがたをかえるレベル」を段落ごとにつけることで、事例の順序性に気づかせる。	6	6	○和紙のよさが、あるにもかかわらず「和紙が使われない理由」について考える。 ・「どうして和紙が使われないのか」筆者に短所を伝えることで、批判的思想力を育てる。
○筆者の事例の選び方について考える。 ・新たな大豆食品を提示し、例として加えてもよいかを考える活動を通して、筆者がどのような意図で本教材の食品の例を選んでいるかについて解釈することができるようにする。	7	7	○本文のキーワードの重要度を考えることを通して、中心となる語や文を捉える。 ・要約の活動の基礎となる部分をつくるために、文や語の重要度を考える活動で文章構造と内容を確認する。

<p>学んだことを生かして説明文を書こう</p> <p>○題材を決め、例の書き方を考える。</p> <p>・選んだ題材について、おいしく食べる工夫や、食品の例を調べる活動を設定する。</p>	8 9	8 9	<p>筆者の主張に対する自分の考えをまとめて、交流しよう！</p> <p>○これまでの学習を生かして「筆者の主張に納得できるか」について考えを200字程度でまとめる。</p> <p>・「考えの形成」について表現できるように、「立場→要約→まとめ」という要約の基本構成を考える</p>
<p>○「すがたをかえる○○」という説明文を書く</p> <p>・下書きの前に、「初め・中・終わり」の文章の組み立てや例の順序を考える活動を設定する。</p>	10 11 12	10 11 12	<p>○「世界にほこる○○」というリーフレットを作る。</p> <p>・題材を決め、リーフレットで取り上げることを設定したら、伝統工芸について調べ、情報を整理する。</p>
<p>○友だちと文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>・互いに読み合い、説明の仕方と内容の両面から感想を述べさせる。</p> <p>○単元の学習をふり返る。</p>	13 14	13 14	<p>○友だちと文章を読み合い、推敲する。</p> <p>・気づきを交流させ、誤字・脱字の他、良さを伝える理由や例がまとまりごとに欠けているかどうか確認させる。</p> <p>○単元の学習をふり返る。</p>

IV 成果と課題

1 成果

3年生は写真と文章とを関連付けながら、毎時間読み進めていったことで、文章理解が深まり内容把握に効果的だった。また、授業1時間に文章構成の内容を一つに絞り、進めたことで何をこの時間で学習したかが明確になったと考える。

4年生は、対比型の板書を用いることで、以前に学習した「アップとルーズで伝える」の文章構成に立ち返りながら、活動を進めることができた。筆者の主張に対して自分がどう考えるか「和紙の端緒」を焦点化させたことで、理解を深めることができた。

2 課題

授業1時間1時間の理解と単元全体としての目標理解とでは、つながらない面があった。単元が終わるときに振り返りを行う必要があると感じた。説明文の文章構成を理解し、自分で説明文や要約文を書けるようになったが、その力を維持するには、国語科の枠を越えて、様々な教育活動で文章を書いていく場も必要だと感じた。

